

平成25年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立田鶴浜高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1 共通教科と専門教科の指導連携により、活力ある授業を目指し、学力の向上に努める。	① 主体的に学習に取り組めるよう、授業における言語活動の充実を図る。	「考えたり、発言する機会が授業中に設けられている」と評価した割合が、 A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。	全 校 85.6% 1年生 84.1% 2年生 83.7% 3年生 89.2% 専攻科 86.0% 評価 A	言語活動充実の方策として、グループワーク・ペアワーク、発表場面を設定した。また、生徒のワークシートを画面カメラで投影し、発表時やまとめ等に活用する工夫をした。 「思考力・判断力・表現力の育成」を目指し、ICTの効果的な活用、必然性のある学習課題や発問を取り入れた授業を実践する。
	② 共通教科と専門教科の指導連携を図ることと、学習内容の定着につなげる。	教師間での指導連携が A 十分できた B 概ねできた。 C 少しできた。 D 十分にできなかった。	A 7.1% B 46.4% C 35.7% D 10.7% 中間評価時のDの割合が16%から改善され、約9割ができたと評価。	共通教科と専門教科の指導連携により、学習内容の精選や重点化を図ることができた。 今後、専門職に求められる基礎的知識の定着に向けた方策を教務委員会等で検討する機会を設ける。
	③ 専門教科指導の土台となる、共通教科の学力向上を図るため、活力ある授業の実施に努める。	国英数理社の共通教科の授業評価で、「授業は興味深く、学習意欲が湧くように工夫されている」と評価した割合が、 A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 である。	全 校 58.3% 1年生 55.9% 2年生 57.8% 3年生 69.4% 専攻科 49.7% 評価 C	生徒の興味・関心を引き出すために、共通教科と専門教科で生徒の学習内容に関する意見交換を行った。 看護・福祉に関連した話題を用いた授業展開を行う。また、個別指導・グループ別指導などを取り入れた指導方法の工夫を重ね、個に応じた指導の充実を図る。
学校関係者評価委員会の評価	予習・復習の数値が高まる仕掛けを工夫してほしい。グループ討議などを通して心づくりの授業を実施していたが、そのような取り組みを大切にしてほしい。			
学校関係者評価者委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	共通教科と専門教科の指導連携により、専門職に求められる基礎知識や学習内容の精選と重点化をより一層進める。必然性のある学習課題や発問を組織的に検討し、生徒の興味・関心を引き出すとともに、思考力・判断力・表現力の育成を目指す。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
2 専門教科指導の充実と質を高める工夫に努め、看護師・介護福祉士国家試験合格率100%を目指す。	① 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	<衛生看護科・高校> 偏差値40未満の生徒が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上である。	<衛生看護科・高校> 1月の結果 1年：0人 評価 A 2年：0人 評価 A 3年：0人 評価 A	看護模試（5年一貫校）の専門偏差値1年：52.5、2年：57.4、3年：55.9と評価は非常に高い。また、看護模試（全国）の人体の構造と機能における偏差値（3年）では、55.8であった。基礎学力の確かな定着が見られる。来年度は、人体に加え、基礎看護の強化を図る。
	② 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	<衛生看護科・専攻科> 偏差値38未満の生徒が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上である。	<衛生看護科・専攻科> 1年：1月の結果(評価 B) 必修1人 2年：1月の結果(評価 A) 必修0人、一般・状況0人 看護師国家試験全員合格	1年：課題提出の徹底、演習を充実させ知識は定着し思考力はついてきた。「疾病」「社会保障」の理解がまだ不十分なため、弱点補強する。 2年：国試対策係による新出題基準に基づいた課題の取り組み、放課後グループ学習により自主的な学習が定着した（総合偏差値 59.3）。個別・弱点補習を強化し、全員が合格した。
	③ 専門教科の知識の確実な定着を図るために小テストや学習方法の個別指導を実施する。学習形態（グループワーク・習熟度等）や学習方法（ICTの活用等）を工夫する。	<健康福祉科1、2年生> 60点以上の生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。 <健康福祉科3年生> クラスの平均得点率が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。	<健康福祉科1、2年生> 1年 80.4% 評価 A 2年 81.3% 評価 A <健康福祉科3年生> 77.6% 評価 B	1年：最終的には80.4%とA評価であったが、早い段階での学習意欲の喚起に対する取り組みが不十分であった。入学時の意欲維持の工夫と学習方法の指導を実施する。 2年：A評価であったが、医学分野の点数に伸びがなかった。反復学習による定着が必要と思われるため、家庭学習の課題を工夫する。 3年：8年連続の全員合格を果たした。改善点としては、伸び悩んでいる生徒の効果的な学習方法には個人的傾向があるため、その方法を早期に検討し、学習を進めていくようにする。
学校関係者評価委員会の評価	看護科・福祉科の現状の取り組みを継続してほしい。自己選択した進路について、自分が本当に向いているか悩む生徒(実習のプレッシャー等も含め)はいる。学校全体でフォローしていける取り組みや体制づくりをさらに進めてほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	看護師及び介護福祉士の国家試験全員合格継承に向け、指導体制をより一層充実するよう努める。看護師・介護福祉士を養成する学校であるという認識の下、知識・技術の指導にとどまらず、心の教育の充実とカウンセリング体制の整備を一層推進する。			

重点目標	具体的取組	現状の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
<p>3 地域の医療・福祉を支える人材について、本校の果たす役割の啓発に努め、志願者の増加に取り組む。</p>	<p>① 地区説明会、個別説明会等を開催し、看護師・介護福祉士の役割を啓発する。</p>	<p>説明会等への参加人数が、昨年度よりも</p> <p>A 10人以上増加した。 B 5人以上増加した。 C 5人未満増加した。 D 減少した。</p>	<p>体験入学 H24・189人→H25・192人 「看護・福祉への道」説明会 H24・46人→H25・30人 地区説明会 H24・134人→H25・119人 個別説明会 H24・19人→H25・44人 昨年度より3人減少 評価D</p>	<p>七尾・鹿島地区の中学生が減少しているが、個別説明会での参加人数は倍増した。今後もきめ細かく情報提供していく。 本校が国家資格取得の最短コースであり、施設の充実やきめ細やかな学習指導が行われている点や看護・福祉に携わる人材が社会より求められていることを強くPRする。潜在的にある看護・福祉への関心を志願に結びつける工夫が必要である。</p>
	<p>② 中学校や地域の方々に本校への理解を深めてもらうために、行事参加機会と情報提供に努める。</p>	<p>学校公開行事への参加人数が、昨年度よりも</p> <p>A 20人以上増加した。 B 15人以上増加した。 C 10人以上増加した。 D 10人未満である。</p>	<p>学校開放講座 H24・42人→H25・40人 学校祭 H24・21人→H25・46人 学校公開 H24・101人→H25・22人 昨年度より56人減少 評価D</p>	<p>学校開放講座は、昨年度3回実施から今年度1回実施に減らしたが、多くの地域の方々が集まった。学校祭は開催を1ヵ月遅らせたことで、招待した中学生が来校し、本校への理解を深めた様子である。学校公開は、耐震工事のため福祉施設の方々を招待できなかったこと。平日開催で保護者の来校が非常に少なかったこと。このため大幅に減少した。学校行事予定には様々な制約があるが、地域に開かれた学校の趣旨を図るべく調整が必要である。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>本校が担っている地域の医療・福祉を支えるという役割や本校の教育活動について、あらゆる機会を通じて啓発に努めるべきである。本校の健康チェックは地域の活性化に大きな役割を果たしている。本校のもつ教育資源(ノウハウ)をさらに地域に還元してもらいたい。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<p>多様なメディアを活用し、様々な機会をとらえて、本校の衛生看護科・健康福祉科の特色ある教育活動について情報発信に努める。本校のもつ医療・福祉分野の特色ある取り組みを通して、地域の諸機関との連携をすすめ、地域社会に貢献できるように努める。</p>			

重点目標	具体的取組	現状の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
4:部活動や生徒会活動等の活性化を図り、看護や福祉の道を志す生徒にふさわしい体力とコミュニケーション力を育成する。	① 生徒会活動や部活動を推奨する。	個々の活動における達成感を感じる生徒が A 80%以上 B 65～80% C 50～65% D 50%未満 である。 ※3年生は前期まで	生徒アンケートより 前期 → 81.5% 後期 → 82.5% 評価A	生徒会活動においては、生徒が責任を持って取り組めるよう活動ごとに目標を決め行動できるように指導した。学校祭や予餞会など生徒全員が参加する活動においては、生徒会執行部やクラス役員が中心となり働きかけることにより、意欲的に活動しようとする生徒が増えていたと考える。
	② 壁倒立の実施により、達成感や体力の向上を図る。	壁倒立ができる生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満 である。	92.7% 評価A	9月から月に一度、静止時間を測定した。記録の上位者を掲示することにより、意欲的に取り組む姿が見られ、殆どの生徒は記録を伸ばし、1分以上できる生徒も62.7%となった。またできない生徒の中には放課後、友達と練習するなど意識強化を図ることができ体力向上に繋がった。
	③ 健康チェックを通し、他者との適切なコミュニケーションがとれるようになる。	生徒の説明が分かりやすいと答える人の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。	92.0% 評価A	年間、11回の健康チェックを実施した。生徒への事前指導として、生活習慣病予防への説明力を強化した。そのため、健康チェック後の結果説明については、対象者に生徒がきちんと対応し、説明できていたことから毎回高評価を頂いている。
	④ 挨拶をする習慣を身につける。	保護者アンケートで A ほとんど全ての生徒が挨拶している。 B 多くの生徒が挨拶している。 C 挨拶している生徒は半数程度。 D 挨拶している生徒は半数以下。 A+Bの割合が95%以上である。	4月のPTA総会 A+Bの割合 83.7% 7月の保護者懇談会 A+Bの割合 94.3% 12月の保護者懇談会 A+Bの割合 94.8%	今年度は生徒指導において挨拶励行を重点において推奨してきた。生徒会与タイアップをしての「朝の挨拶運動」も実施した。数値的には大幅に改善されており、校内での挨拶の声が学校に明るい雰囲気を生んでいると実感される。 一部生徒には挨拶への意識がうすい生徒もいるが、コミュニケーションの第一歩は気持ちの良い挨拶からと心得、継続して取り組んでいく必要がある。
学校関係者評価委員会の評価	挨拶の習慣化や、壁倒立で身体のバランスを保ち、身体を支える能力を高めることは大切な取り組みである。健康チェックやボランティア活動を通じてコミュニケーション能力が高まってきた。今後も継続してほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法	学習活動の充実に加えて、部活動やボランティア活動、生徒会活動などの課外活動においても質や内容が充実するように努める。			